

# 報告書

第1回 J L A シミュレーション審査会

# 目次

1. 概要
2. 審査会風景写真
3. 所感

# 第1回 JLAシミュレーション審査会の概要



## 第1回 JLA シミュレーション審査会

2016年 12月3日 土曜日

10:00-16:30

葉山大浜海岸

神奈川県葉山町

観覧見学自由



### 早期発見から医療機関への引継ぎ連携まで！

ライフセーバーの海水浴場における監視活動中に発生するあらゆる水難事故を想定し、溺水者や傷病者を早期に発見し、迅速で的確な一次救命処置から救急隊、医療機関へ引き継ぐまでの連携を高めることで、溺水者、傷病者の社会復帰を確実にすることが、この審査会の目的です。

■参加 21 チーム (ライフセーバー 126 名)  
役員・審査 17 名、エキストラ・スタッフ 20 名、葉山町消防本部 3 名

- 想定
- ▶ 審査長の「想定はじめ」の合図から審査開始とします。
  - ▶ 6名態勢で通常の監視業務中に有事が起きたこととします。
  - ▶ 他にも遊泳客は存在し、海のコンディションは良好です。
  - ▶ 遊泳禁止等の判断は海浜組合・役場の3者と協議し決定しているため容易に変更できない状況です。
  - ▶ 実施者により仮想119通報があり、救急隊要請された場合、後に救急隊が到着します。
  - ▶ LA連携パトロール技能強化委員会(以下LAPと表現する)が計測を行い、LAPの「想定終わり」の合図によって審査終了とします。

制限時間

実施人数

1チーム  
9分

1チーム  
6名

内訳：監視長1名・監視員5名

- 審査項目
- ① 継続監視
  - ② ライフセーバー間の連携
  - ③ 救急隊への引き継ぎ
  - ④ 観衆への対応
  - ⑤ 監視長の指揮
  - ⑥ 資器材の適正な取扱い
  - ⑦ 環境に配慮した対応
  - ⑧ 接遇
  - ⑨ 関係者の対応
  - ⑩ 警察官への対応

審査結果により平成28年12月10日(土)JLA納会にて  
優秀チームを表彰します。

主催：特定非営利活動法人日本ライフセービング協会(JLA) 主管：溺水事故防止プロジェクト本部 LA 連携パトロール技能強化委員会  
後援：消防庁、海上保安庁、神奈川県、葉山町  
協賛：フィリップスエレクトロニクスジャパン株式会社、株式会社櫻井興業 GUARD 事業部  
協力：葉山町消防本部、国士舘大学防災・救急救助総合研究所、有限会社吉田三郎商店、NPO 法人西浜サーフライフセービングクラブ、  
NPO 法人九十九里ライフセービングクラブ、東京消防庁ライフセービングクラブ

# 第1回JLAシミュレーション審査会の概要

## 【審査会の趣旨】

ライフセーバーの海水浴場監視活動中に発生するあらゆる水難事故を想定し、溺水者や傷病者を早期に発見し、迅速で的確な一次救命処置から救急隊及び医療機関へ引き継ぐまでの連携技能を高めることで、溺水者、傷病者の社会復帰を確実にする。

## 【審査会の目的】

監視業務継続中、有事の対応及び医療機関まで『命をリレーする一員』として、連携能力向上を目的とする。

# 第1回JLAシミュレーション審査会の概要

## 想定時系列

時間	項目	備考
0分	ライフセーバー（以下LSと表現）詰所テントに実施チームは配置 固定監視 監視長の「準備よし」の呼称があったら LA連携パトロール技能強化委員会の『想定はじめ』の合図で計測開始	
開始15秒後	LS詰所テントにクラゲ被害にあった浴客が来る	
開始45秒後	サーフボードに傷病者をうつ伏せに乗せたサーファーが波打ち際で助けを呼ぶ	
開始3分後まで	死戦期呼吸（LS接触後2分間、補助呼吸実施していたら2分以降は呼吸なし） 上記直後に訓練用AEDにより、解析開始、ショック その後レベル300、EAR無しECC無し、外傷無し 長い金属のネックレス フルウェットスーツ（前ファスナー） 中にラッシュガード 衣類含む私物は友人の車内（駐車場） サーファーからの情報は沖でうつぶせに浮いていたのを2分前に発見、サーフボードに乗せ浜まで搬送との情報のみ 関係者（友人）は、浜まで搬送されてきた直後に接触、慌てており、LG接触後30秒間は会話にならない、その後、荷物を取りに行くと駐車場に向かわせると救急隊到1分後まで戻ってこなくなる。 駐車場に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、傷病者の名前 提橋宏和 or 提橋宏美、電話番号は携帯をいじってしばらくしてから回答 090-7000-5762、住所は回答できない品川区とだけ回答、かかりつけの病院は東京都港区の大門病院、既往歴は狭心症、常備薬は車の中（ニトロールとか言っていました…）、友人の氏名は相良敏光 or 相良敏恵、友人電話番号は 090-5577-4222、2人で遊びに来てシュノーケルで遊んでいたら20分前にはぐれた、傷病者のバイタル：死戦期呼吸及びその後呼吸無し、CPR以外は見たまま、友人はA隊に同上可能（車はどうすれば…） <b>傷病者は生体のため ECCは実施している様だけで行う</b> 119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せばそれぞれ出場する。	
開始5分後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）	
開始7分	A隊長指示で、搬送開始 それまではA隊は観察継続	
開始9分	車内収容完了 LA連携パトロール技能強化委員会の『想定終了』の合図で計測終了	

# 第1回JLAシミュレーション審査会の概要

## 当日タイムテーブル

時間	項目
08:00	係員集合 会場設営
09:00	A Mの部 受付開始
09:30	A Mの部 葉山消防本部3名様のご紹介 事務連絡及び補足説明 理事長 初めの挨拶
10:00	第1回目実施 逗子サーフライフセービングクラブ
10:15	第2回目実施 新島ライフセービングクラブ
10:30	第3回目実施 大洗サーフライフセービングクラブ
10:45	第4回目実施 熱川ライフセービングクラブ
11:00	第5回目実施 西浜サーフライフセービングクラブ
11:15	第6回目実施 湯河原ライフセービングクラブ
11:30	第7回目実施 館山サーフライフセービングクラブ
11:45	第8回目実施 波崎サーフライフセービングクラブA
12:00	第9回目実施 銚子ライフセービングクラブ
12:15	審査員 昼食
12:30	P Mの部 受付開始
12:45	P Mの部 事務連絡及び補足説明
13:15	第10回目実施 下田ライフセービングクラブ白浜
13:30	第11回目実施 大竹サーフライフセービングクラブ
13:45	第12回目実施 波崎サーフライフセービングクラブB
14:00	第13回目実施 鎌倉ライフガード
14:15	第14回目実施 九十九里ライフセービングクラブ鋸南
14:30	第15回目実施 中央大学ライフセービング部
14:45	第16回目実施 神戸ライフセービングクラブ
15:00	第17回目実施 大阪ライフセービングクラブ白良浜
15:15	第18回目実施 大阪ライフセービングクラブ片男波
15:30	第19回目実施 下田ライフセービングクラブ弓ヶ浜
15:45	第20回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブB
16:00	第21回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブA
16:15	審査長 講評 事務連絡
16:30	■実施チーム 撤収は審査員以外協力 本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 解散 ■審査員は本部テント内に集合
17:30	審査票調整後回収 審査員から意見收取 全係員解散

# 第1回JLAシミュレーション審査会の概要

## 会場図





開会式 理事長による挨拶。



葉山町消防本部救急隊員の方と、救急車の借用協力して下さった国士舘大学防災・救急救助総合研究所の方との挨拶及び最終事前打合せ。





エキストラの本番さながらの演技力。



エキストラの協力なくしては成し得なかった審査会 エキストラは12名<sup>9</sup>



救急隊に引き継ぐ前の段階で、現場にいた関係者から情報を聴取する。それが救急隊の早期出発につながる重要事項。



救急隊員に傷病者記録票を活用し充実した申し送りを実施。



海水浴場で起こりうる車内収容までの支援活動を審査する。



口頭のみでの申し送りだけでなく、必要事項記載の傷病者記録票を手渡すことが、救急隊の現場早期出発につながる。



多くの見学者のもと実施された。



見学者は午前中から夕方まで減ることはなかった。<sup>12</sup>



西浜チーム  
現場監督者が抑揚を  
使い分け関係者を協  
力させていた。

西浜チーム  
救急隊が欲するところ  
に先読みがたけて  
いた。



西浜チーム  
高度な連携能力があ  
ると救急隊の搬送が  
楽になる。



海の公園Bチーム  
監視長の強いリー  
ダーシップ。

海の公園Bチーム  
観衆に遮蔽物依頼。



海の公園Bチーム  
救急隊引継ぎ後監  
視業務に戻る。



大竹チーム  
器材と人による活動  
が習熟していた。

大竹チーム  
関係者や観衆の活  
用がたけていた。



大竹チーム  
ライフセーバー間の  
連携の習熟度が高  
度であった。



閉会式で審査長による講評実施。



閉会式後に審査員17名が集まり審査内容を確認  
後日検討推奨事項を会員に発信するため。





**実施チーム21チーム**

**実施者126名 係員40名 見学者約100名**

**合計約260名**

**多くの参加者のもと実施された第1回JLAシミュレーション審査会は、今後大きなイベントとして飛躍する可能性を確信しています。**

# 【所感】

日本ライフセービング協会に登録している全国206カ所の海水浴場では、各々、有事を想定した事故対応訓練（シミュレーショントレーニング）を実施しています。

ライフセービング活動は、大前提として事故未然防止です。

しかし、実情は数万人の水浴場利用者に対して、数十人で監視するには限界があるのは否めません。そこで普段の備えとして、有事を想定したシミュレーショントレーニングを行っておくことが重要となるのです。

一方、そのトレーニングレベルは様々で、水浴場利用者数が一日に数万人となるような場所では、様々な経験からなるトレーニング内容が実施されています。一日の水浴場利用者数が数十人の場所では、ライフセーバー自体の有事対応の経験値に大きな差が生まれてしまいます。

ですが、普段の監視パトロールにも高度な連携技能が求められ、その連携能力が有事にも発揮されるものと信じています。

更には、有事発生時に医療機関まで早期搬送するには、『医療機関までリレーする一員』として自覚し、公的救助機関との高度な連携能力が重要と考えます。

消防白書によると、救急車が、災害現場に到着してから医療機関に到達する時間は、全国平均  
【30分48秒】

救急隊が、災害現場を出発してから医療機関到着までは全国平均  
【11分30秒】

現場で20分近く何をしているのか

傷病者の情報をとったり、荷物を回収したり、友人などの関係者や救急車に同乗する人物を確保したり

救急隊が医療機関に早く出発できるようライフセーバーには協力できることがあるのです。

普段から日本ライフセービング協会が推奨する『傷病者記録票』を活用するなど、救急隊への申し送りや、事前に情報聴取は、医療機関へ早期搬送に対して有益な行動となります。

チーム単位のトレーニングと違い、審査会の実施で、より実際の災害現場に近い環境下であり、観衆に囲まれての環境で実施。

事後に審査会の検証会や、審査員の審査票から検討推奨事項を全国に発信し、来年度の全国のパトロール活動に活用することで、島国日本の安全沿岸利用に繋がればと願ってやみません。

全国の水辺で起こる事故は防げる、又は発生してしまった後、予後を大きくしない活動にライフセーバーは審査会を通して、様々挑戦していきます。

医療機関まで搬送リレーする一員として、情報申し送りをより効率的・迅速に行う。

我々の行動で【30分48秒】が28分や27分になるかもしれない。

助かるはずの命のリレー 挑戦していきます。

特定非営利活動法人 日本ライフセービング協会  
溺水事故防止プロジェクト本部  
L A連携パトロール技能強化委員会  
第1回JLAシミュレーション審査会 実行委員長 菊地太